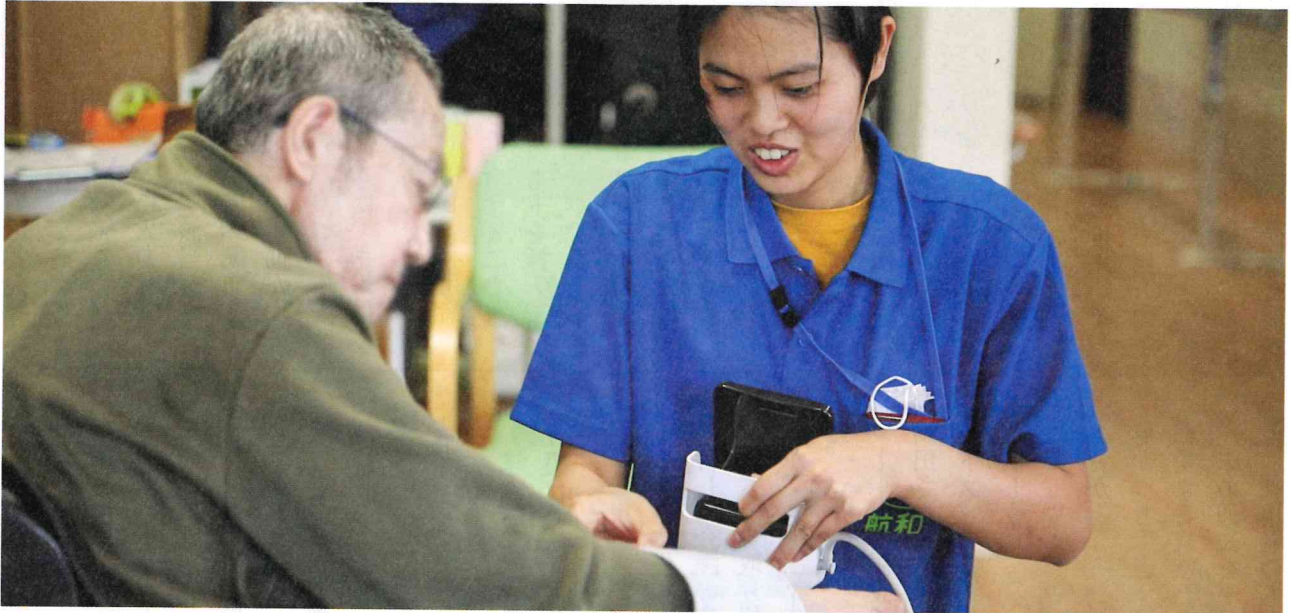


# 事務作業の大幅軽減で 介護士本来の仕事に専念

株式会社航和 岩手県雫石町



クラウド化で作業効率が上がった分、介護士と利用者が接する時間を大切に

岩手県岩手郡雫石町で介護施設を運営する株式会社航和では、クラウド化で職員の事務作業を大幅に削減。離職率を28%から8%にまで改善させた。

## 介護が苦ではなく 事務作業が苦痛

岩手県雫石町の株式会社航和が運営する介護施設は、日本でもっともクラウド化が進んだ介護現場といえるだろう。

航和の前身は、1972年から地域住民に親しまれてきた整骨院。2代目で、現代表取締役の佐々木航さんが、患者からの要望で、株式会社航和を設立し、介護業界へ参入した。

未経験の介護業界でもっとも悩まされたのは、人手不足。離職率が28%と高く、せつかく採用できても定着しなかった。

この課題解決のため、佐々木さん自ら、職員一人ひとりからヒアリングを行った。すると、意外な答えが返ってきたという。「介護は苦ではありません。事務作業に時間を割かれるのが苦痛なんです」と。

「この意見を聞いたときにハッとしました。事務作業に時間を

割かれて、本来の仕事ができていないのだと気付かされました」。これをきっかけに、紙が中心だったアナログの情報共有から、パソコンやタブレットを用いたクラウド化で、作業効率の見直しを進めていく。

## IT活用で情報共有の ための入力作業を効率化

今までの情報共有方法はこうだ。体温や血圧などを測り、一



タブレット端末やBluetooth機器を現場で使えるようにしたことで、事務作業を溜め込まずその場で処理